



港区を二mも持ち上げた

ウソのような

ホントの話

地盤沈下で高潮被害

海と川に囲まれた港区。

その上、大阪港の発展と共に、大量の地下水汲み上げによる地盤沈下が明治時代から始まっていたそうです。おかげで度重なる高潮の被害に見舞われてきました。大阪市が始めた年一回の調査によると、港区では一九三五年（昭和一〇年）から、一九四四年（敗戦の前年）の一〇年間で一メートル以上も土地が沈んだと記録されています。

敗戦の翌月にやってきた枕崎台風では、港区は四〇日間も水につかりました。戦争と水害で、港区の人口は二六万人から八六〇〇人に減りました。

大阪大空襲で焼け野原

大阪では一九四四年末から翌年八月十四日（敗戦前日）まで、米軍による空襲がくり返され、全域が焦土と化しました。大規模な空襲は四五年の三月から始まり、中でも港区の被害は甚大でした。多くの人々が殺され、傷つき、焼け野原に黒焦げの遺体の山…。

戦争中、兵員や軍馬、武器・弾薬などが鉄道で

大阪港に運ばれ、そこから戦地へと向かいました。つまり港区は侵略戦争の兵站・出撃基地でした。その為に爆撃機は最初に大阪港に飛来、激しい空爆をして市内中心部へと向かいました。今、米軍

地図から消された線路

基地が「日本を守ってくれる」と思っている人、それがとんでもない勘違いであることを歴史は教えています。基地があれば「狙われる」のです。

ちなみに、今も一部残る、軍用列車が走った線路は

「地図にはなかった」と、戦前から港区に住む方が教えてくれました。「軍事機密」として消された：今の日本、再びその道に入っている気がします。

港区持ち上げ事業

ということ、戦後の町づくりでは大阪港修築工事です。土砂を使って、港区の土地に高さ二mも

空襲後の大阪市街
左端は南海難波駅、右手前には松坂屋大阪店（現・高島屋東別館）、中央に大阪歌舞伎座が認められる。



